

## 志怪と伝奇

—小南一郎先生の研究をめぐって—

平成十二年十二月四日より八日まで、京都大学人文研究所教授小南一郎先生による集中講義「唐代小説の研究——伝奇小説の場と作品——」が開講された。小南先生を非常勤講師としてお迎えすることは、かねて学生より強く希望されていたことであり、私たちにとって数年来の念願がようやく実現したものだ。そこでこの機会に、授業とはまた別の形で先生の学問に接することはできないかと考え、ある催しを思いついた。現在中文研究室では、博士一年佐野誠子が志怪と五行志を、助手溝部良恵が「広異記」を中心に唐代の小説を専攻している。いうまでもなくこれらの領域は、小南先生の業績を抜きにして研究を進めることはできない。彼女たちはいわば小南先生と格闘しつつ、自分たちの研究の骨組みを形作っているのである。そこで二人が先生の研究を学ぶ中で感じた疑問を率直にぶつけ、先生のご回答をいただき、さらに参加者を交えて討論を行うことができれば、二人にとつてのみならず、参加者全員にとつてまたない勉強の機会になるのではないかと考えた。幸い小南先生にはご快諾をいただき、十二月八日の午後三時より、佐野誠子「五行志」と千宝「搜神記」、溝部良恵「六朝唐代小説史研究における諸問題」の二つの研究報告と討論を行った。ここに採録するのはその模様である。なお筆者自身も長年小南先生より大きな学恩を受けてきた。直接お教えを受ける嬉しさから、つい遠慮のない質問をさせて頂いたが、先生は寛いお心で懇切なご回答を下さった。私たちにこのような機会を与えて下さったことに対し、改めて深く感謝の意を表したい。(戸倉英美記)